

東京都済生会中央病院 脳神経内科



① 病院概要

東京都済生会中央病院は、明治天皇の済生勅語に基づいて創立された恩賜財団「済生会」の本部直轄の病院として大正4年に「済生会芝病院」として開院され、戦後に「東京都済生会中央病院」となり現在に至ります。2017年には新病棟を開設し（総病床535床）、35診療科による高水準の総合的診療を提供しています。また3次救急も扱う救命救急センターとしての地域の救急医療も担っており、急性期最先端治療を行える診療機関です。慶應義塾大学病院からも大江戸線で4駅の近さ（赤羽橋駅まで約10分）にあり、患者紹介・救急搬送等の連携も頻繁に行っています。

② 脳神経内科の特徴

1. 脳卒中診療に強い脳神経内科

救急医療に強い当院の脳神経内科は脳卒中診療に長けており、2018年にはStoke Care Unit(SCU)を開設、2019年には一次脳卒中センター(PSC)に認定、2022年には地域の脳卒中治療の中核であるPSC Core施設にも認定され、24時間365日体制でt-PA療法・血栓回収療法を行っています。血管内治療に関しては全国的にも珍しい脳神経内科医が主導で治療を行っている施設であり、脳血管治療専門医を目指す脳神経内科にとっては症例を多く経験できる恵まれた環境が整っています。また脳神経外科とも病棟を共有し毎朝合同カンファレンスも行っており、脳卒中の外科治療（血種除去術、脳室ドレナージ術、外減圧術等）も時期を逃さず施行できます。

2. 神経救急疾患に強い脳神経内科

痙攣、髄膜炎・脳炎、急性発症の頭痛、ギランバレー症候群等の患者さんも多く受診されます。これらの神経救急疾患は早期の診断・治療により予後の改善が望める treatable な疾患であり、当院では適切な検査の施行、速やかな治療の提供ができる体制を整えています。

3. アカデミックな脳神経内科

上記通常診療と同時に治験や臨床研究も常時行っております。また定期的に抄読会、神経放射線画像カンファレンスを開催し、学会発表、論文作成等も鋭意行っており、最新の医療を提供すべく日々研鑽を積んでおります。

③ スタッフ（*1：神経内科専門医、*2：脳卒中専門医）

- ・星野晴彦*1*2（副院長）脳卒中協会東京都支部長・東京都循環器病対策推進委員会委員長
- ・足立智英*1*2（総合診療科部長、脳神経内科医長）脳卒中治療ガイドライン委員
- ・大木宏一*1*2（脳神経内科医長）脳卒中治療ガイドライン委員
- ・山田哲*1*2（脳神経内科副医長・血管内治療科医長）脳神経血管内治療学会専門医
- ・馬島恭子*1（脳神経内科医員）認知症学会専門医、臨床神経生理学学会専門医（脳波・筋電図・神経伝導）
- ・成田秀文*1（脳神経内科医員） ・高橋祥子（脳神経内科医員）
- ・病棟ではローテーター専修医・研修医の先生とともに診療を行っております。

脳神経内科 HP <https://www.saichu.jp/department/neurology/about/>

脳卒中センターHP <https://www.saichu.jp/introduction/stroke/>